直訳による中国語文法の把握状況の調査

中　野　耕　市

Investigation into the situation for grasping the Chinese grammar by the literal translation

NAKANO Koichi

〔要　旨〕

直译，是比较有效的学习方法之一。通过反复进行中文直译日语的练习，可使学习者对中文语法构造及其表现法的正确理解有所帮助。不过，从练习结果来看，在语法上的关键词和句型之中，有些易懂，有些则难懂。

我对那些不正确的直译进行了分析，大约归纳出了一些学习者掌握不好的语法现象以及句型。比如，“我性格又开朗又乐观。”此句本为主谓谓语句，但是，超过八成学习者将其直译成“我的性格…”（形容词谓语句）。由此看来，很多人没掌握好“我性格…”和“我的性格…”之间的语法差异。可令人遗憾的是，在不正确的直译之中找不到掌握上的共同障碍。

0．はじめに

直訳（あるいは逐語訳）(1)は、多くの批判もある(2)が、中国語に限らず、外国語における文法構造や表現法を理解する上で、特に学習の初期の段階において、有効な学習方法の一つである。

たとえば、“我家有三口人。”という文には、文型を把握する上で役に立つキーワードとして動詞“有”が含まれている。これは“A有B”という文型を構成しており、「AはBを持っています」または「AにはBがあります／います」という日本語に直訳することができる。つまり、例文では、Aに当たる“我家”は「わたしの家」、Bに当たる“三口人”は「３人の人」で、数学の公式のように機械的に語句を代入すれば「わたしの家には３人の人がいます。」という直訳を得ることができる。もちろん、日本語としては、文字通り直訳的で不自然であるので、意訳して「我が家は３人家族です。」とすべきだというような主張も多くみられる。では「我が家は３人家族です。」という日本語を中国語でどのように表現するのか。上級者であれば、例文のように直ちに訳すことができるかも知れないが、初級者（場合によっては中級者でさえ）日中辞典を引いて単語を調べ、また「AはBです（Bは名詞）」という日本語は、は“A是B”という中国語の文型に対するという知識があれば、“我家是三个家人。”と直訳するかも知れない。この文は意

味が通じないことはないようだが、多くの場合は、いかにも日本語の直訳的な中国語となってしまいがちである。

もう一例挙げると、“他们只有一个孩子。”は、直訳すると「彼らには一人の子供がいるだけです。」となるが、意訳した日本語「あの人たちには子供が一人しかいません。」と比べてみると、中国語は肯定文で表現しているが、日本語では否定文で表現していることがわかる。一般的には、肯定文では文字通り肯定的で積極的に主張するようなイメージがあるが、否定文では否定的で消極的なイメージがあり、直訳することによって、同じ事柄を表現するのに中国語と日本語では表現法が異なる、ということを理解する上で、大きな助けとなることが期待できる。

一般に、外国語習得の初期段階で（それ以降でも）よく見られることだが、日本語を外国語に翻訳する場合、まず日本語で原稿を書き、辞典にある語句を使ってそれをそのまま外国語に直訳してしまいがちである。このとき、日本語と外国語の文型や語句のニュアンスの違いなど、漠然と十分に理解しないまま進んでしまうため、間違いにも気づかなかったり、より外国語に近い実用的な表現がなかなかできなかったりすることがある。日本語の原稿を書くときに、外国語に翻訳しやすいような日本語を書くようにしようという主張も見られる(3)が、以上述べたように、日本語への直訳を繰り返し練習することにより、学習者にとって最も身近な日本語で、その外国語の構造や表現の特徴を把握したり理解したりすることができることは、大きな手助けとなるだろう。また最終的には、生の日本語を外国語に訳しやすい日本語に変換し、その上外国語に翻訳するという技能を身につける上でも、有効な学習方法の一つではないかと考える。

特に中国語は漢字で書くため、漢文の影響もあり、中国語を学んだことがない人でも、ある程度の内容を把握することは可能である。ただ日本語でもよく使う漢字、たとえば“会”は中国語でも「会、会議」という名詞、「会う」という動詞で使われることがあるが、このほかに文法的な機能を表すキーワードとなる能願動詞（助動詞）として、「（練習をしたので）～できる」とか「～のはずである」という意味で使われることも多く、日本語では一般にこのような用法はないため、やはり教えてもらったり辞典を引いたりしなければ、正しく理解できないとことになる。このような例は他にもたくさんあるが、つまり、中国語を教えている者の立場から見ると、直訳を通じて、文法的な機能を表すキーワードや文型をきちんと把握しているかどうかチェックする指標の一つにもなるし、また学習者にとっても、直訳がこうだから、意訳はこうなると自信を持って翻訳することができるようになることが期待できるのではないだろうか。もちろん、直訳から意訳への導きもある程度必要だと思う。

以上、外国語学習法の一つとして、直訳の有効性について述べたが、しかしながら直訳練習の結果を見てみると、文法的な機能を表すキーワードや文型に、わかりやすいものとわかりにくいもの（覚えやすいものとそうでないもの）があるようだ。これには、学習者の意欲などの他の要因も大いに影響していると考えられるが、ここでは直訳としては正しくない回答を分析することによって、主な文法事項の把握状況を分析し、その原因を考えてみたい。

対象は、本学経済学部で１年次開講の『中国語ＩＡ』『中国語ＩＢ』（それぞれ週１回、同時履修）を履修し、その単位を修得した上で、２年次開講の『中国語ⅡＡ』（週１回）を履修している、ちょうど初級から中級にかけての過渡期にいる学生[4]で、2006年度の18名[5]、2007年度の34名で、合計52名[6]である。まず上述のように直訳の有効性を説明した上で、前期の授業を通じてほぼ毎回、中国語の文章を日本語に直訳する練習してもらい、復習も兼ねて小テストも実施し、さらに正答率が低い文については、ポイントなるキーワードや文型を指摘しながら、なぜそのような直訳になるか解説を加えた。練習に使った教材は、『中国語ＩＡ』で学んだ基本文型やキーワードを盛り込んで学生が書いた「自己紹介」原稿数名分と、中国語検定協会が行っている「中国語検定試験４級」で過去に出題されたリスニング問題の中の自己紹介的な文章数編で、学生にとっては他人の文章ではあるが、１年次の復習となる内容である。なお前期授業開始早々に、中国語辞典（中日辞典）の引き方についても説明、練習してもらい[7]、授業には辞典を必ず持ってくるよう指導したが、文章すべてを辞書だけで直訳してもらうには時間がかかりすぎるため、教材ごとに文章に対応するピンイン（中国語の発音用ローマ字）と語句表を附した。また前期期末試験は、中国語辞典の持ち込みを許可し、配点の約７割を直訳の問題に当て、問題は練習に使った教材と同様、学生による「自己紹介」１編と、「中国語検定試験４級」から１編[8]、それぞれ初見の文章を使ったが、試験時間60分という時間的制約もあるため、前文にピンインも付け、「次の文の下線部を、前後の文へのつながりも考慮して、文法的な構造がわかるように、過不足なく日本語に直訳しなさい。なお必要に応じて（　）を付して意訳も併記すること。」と出題した。なお同時試験ではないため、単語や下線部を入れ替えたり手を入れたりした箇所がある。

１．直訳による中国語文法の把握状況①

ここでは、学生による「自己紹介」の文章[9]を試験問題とした回答から分析を行う。

１．１．我今年二十岁了。

この文では、名詞述語文と文末の「状況の変化」を表す語気助詞“了”が直訳に現れるかどうかが採点のポイントなっている。直訳は「私は今年20歳になりました。」となるが、正答率[10]も88.5％と高かった。しかし“了”の意味が理解できないないのか、またはうっかりしたのか不明であるが、「私は今年20歳／才です。」という訳も11.5％あった。

１．２．我性格又开朗又乐观。

この文では、主述述語文と“又～又…”がポイントとなっている。文頭の“我性格”は直訳では「私は性格が…」となる。しかし、86.5％近くが「私の性格は…」と訳しており、「私は性格が…」と訳したものは11.5％と最も低かった。もし「私の性格は…」であるならば、中国語で

は“我的性格…”と構造助詞“的”が必要となり、文全体は形容詞述語文となる。ただ“性格”と結びつく形容詞が少ないため、例文の提示がしにくく、“性格”を省略して形容詞述語文としての露出が多かったことも一要因かも知れないが、なんといっても、「私は性格が…」と「私の性格は…」の違いが意識されていないことも大きな原因ではないかと思われる[11]。形容詞述語文と対比した例文の提示と練習が必要な文型の一つである。

1．3．我老家有六口人：　有老爷、姥姥、父亲、母亲、一个弟弟和我。

／我老家有六口人：　有爷爷、奶奶、父亲、母亲、一个妹妹和我。[12]

この文では、動詞“有”の直訳「～は…を持っている」「～には～がいる／ある」がポイントである。前半では92.3％の回答がこの直訳パターンになっているが、長かったせいか、後半の“有老爷、…”の“有”を訳し忘れて、「…、一人の弟と私です。」と訳しているものが50.0％も見られた。また“六口人”は「数詞＋量詞（助数詞）＋名詞」という構造であるので、直訳すると「６人の人」となるのだが、正答者の６割近くが「私の実家には６人います」という訳をしていた。なお構文把握ではないので正解として扱ったが、「祖父」「祖母」は中国語では父方と母方で単語が異なり、“老爷”は「母親の父」、“爷爷”「父親の父」を指す。練習時には、日本語の直訳を見て、もとの中国語に訳しやすくするため「（母方の）おじいさん」などのように、（　）を付けて直訳に盛り込むように指導していたが、これも生かされていないものが多くみられた。これは、日本語では「おじいさん」「おじいちゃん」「祖父」のように、父方、母方を区別していないため、身近にいる親戚であるにもかかわらず、「だれの～」という意識が薄いことも影響しているのではないだろうか。

1．4．我弟弟比我小两岁。

この文は、「A＋“比”＋B＋形容詞＋差分」という比較文のパターンであり、「私の弟は私より２歳年下です／小さいです。」という直訳になる。内容が単純なせいか、正答率が最も高く、不正解となった訳はなかった。ただ今回は調査対象とならなかったが、否定文の“我哥哥没有我这么高。”（兄は私ほどこんなに（背が）高くないです。）が直訳できるかどうか、また逆に日本語から中国語に訳す場合、「２歳年下です」を正しい語順で翻訳できるかどうか、調査が必要かも知れない。

1．5．他非常严格，<u>因此不让我晚上出门。</u>

後半の文は、使役を表す動詞“让”が使われている兼語文である。使役は一般に「～に～させる」と直訳することができるので、「（彼は非常に厳しく、）従って私に夜外出させません。」という直訳になるが、日本語としては違和感があるせいか、「私を夜外出させない」という訳も２割近く見られ、動詞“让”の目的語でもあるため、正解とした。ただし「私は外出させられな

い」という訳した回答が42.3％あった。これは、下線部では主語が省略されており、前文から「だれが」という部分を補って考えることにまだ慣れていないためではないかと思われる。

1．6．我家离高坂车站不太远。

介詞（前置詞）“离”は、基準となる点からの距離を表し、「わたしの家は高坂駅からあまり遠くありません。」または「わたしの家は高坂駅まであまり遠くありません。」となる。しかし、5割強が「わたしの家から高坂駅まであまり遠くありません。」と訳しており、前置詞“从～到…”との違いがわかっているのかと言う以前に、介詞という文法用語ではなく前置詞と説明しているのだが、「前置詞は前に置くから前置詞」ということが理解できているのかどうか疑わしい。ほかに“不太”（あまり～でない）を訳さず「遠くありません」としたものが1例、意訳としては正しいかも知れないが「…それほど離れていません。」としたものが2例あった。

1．7．我坐了十分钟校车。／我坐了两个半小时电车。／昨天晚上，我睡了六个小时觉。

動態助詞“了”が動作の完成を表し、さらに動量補語を伴った文になっている。これらはポイントは共通しているが、単語がかなり異なるので、単純比較は難しいかも知れないが、正答とする訳は67.3％であった。ただし“十分钟校车”は直訳すれば「10分間学バスに」となるが、採点する方としては悩ましいのだが、自然な日本語に影響されたのか「学バスに10分間」と訳している例が若干見られた。また“昨天晚上，我睡了六个小时觉。”を出題したクラスでは、「昨夜、私は6時に寝ました。」という回答例があった。

1．8．我会弹钢琴，可是弹得不怎么样。／我会弹吉他，可是弹得不怎么样。

前半では能願動詞（助動詞）“会”が「（練習したので）～できる」を表し、後半では様態補語を導く構造助詞“得”が「～しかたが…／～の具合が…／～のが…」と、それぞれ直訳できるかどうかがポイントである。前半は正答率が84.6％であったが、理由は不明であるが、「…あまりうまくひけない」と否定的に訳した例が4例あった。後半は正答率が44.2％と低かった。これには、構造助詞“得”の働きが理解できていないことが要因だと思われるが、“得”が「～できる」と可能補語の肯定形を構成する場合もあるため、混乱が生じているような「大した弾くことができない」という訳も見られた。また“不怎么样”（たいしたことはない）という表現が、疑問詞“怎么样”（どうですか）と区別できていないような訳もあった。

1．9．我没有去过台湾，…／我没有去过中国，…

動態助詞“过”が経験を表し、さらに動詞の前に“没有”を伴っているので、否定形となっている。直訳は「私は台湾／中国に行ったことがない（ので）、」となり、正答率も92.3％と高かった。しかし細かい点であるが、副詞“还”（まだ、なお）が文中にはないにもかかわらず、「ま

だ」を付けて訳した回答が比較的多くみられたのは、意外であった。

1.10. 而且我还想说说我学过的中文。

ポイントは、動詞の重ね型（この文では“说说”）、経験を表す動態助詞“过”、構造助詞“的”の直訳である。直訳は「その上私はさらに私が学んだことのあるところの中国語をちょっと話してみたいと思います。」となるが、正答率が36.6％と低い文の一つである。回答の中で「その上私はさらにちょっと話したいので、中国語を勉強します。」というのが比較的多かった。これは“我还想说说”をまず訳し、“我学过的中文”を次に訳したように見える。ただ、もし「中国語を勉強します」なら“学中文”となっていなければならないはずなのに、“过”と“的”を読み飛ばして、つじつま合わせの勝手な訳をしていることから、やはり“中文”を修飾している“我学过”とそれらをつなぐ“的”の働きが理解できていないことが見て取れる。

2．直訳による中国語文法の把握状況②

ここでは、中検研究会（2002）56頁[13]（一部手を入れた箇所がある）を試験問題とした回答を分析する。

2．1．铃木有一个中国朋友，叫李敏，…／高桥有一个中国朋友，叫李敏，…

ポイントは動詞“有”であり、「鈴木（さん）／高橋（さん）には一人の中国の友達がいて、李敏といい…」または「鈴木（さん）／高橋（さん）は一人の中国の友人を持っていて、李敏といい…」となる。これは正答率が90.4％と高かった。しかし若干であるが、「鈴木（さん）／高橋（さん）には李敏という一人の中国の友達がいて、…」という訳が見られ、確かにコンマがなければこのような直訳も正解であるが、ここでは正解とはしなかった。また数名であるが、“叫李敏”を「動詞“叫”＋人名“李敏”」と認識できていないと思われる「中国人の友達がいて、叫李敏（さん）で…」という訳が２例あった。

2．2．…，是从上海来的留学生。

ポイントは、動詞“是”と構造助詞“的”であり、直訳は「上海から来たところの留学生です。」となるが、正答率は71.1％であった。多かったのは「上海から来た留学生なのです。」という訳で、25％近くみられた。これは、どうやら“是…的”構文の直訳「～したのです」にも、「のです」が出てくることから、それとの混同が原因ではないかと考えられる。

2．3．他们是在学校的图书馆认识的。

ポイントは“是…的”構文であり、直訳は「彼らは学校の図書館で知り合ったのです。」とな

る。正答率は67.3％であったが、それでも「彼らは学校の図書館で知り合いました。」という訳が25％近く見られた。“是…的”構文の“的”が「の」、“是”が「です」なので、「～のです」と機械的に覚えることはさほどが難しいことではないように思うのだが、４人に１人はできないというのは、どういうことなのだろうか。確かに日本語でも「～しました」と「～したのです」とを使っているにもかかわらず、日本語でも違いを認識していないことが影響しているのかも知れない(14)。

２．４．李敏来日本三年了，…

ポイントは文末の状況の変化を表す語気助詞“了”であり、「李敏は日本に来て３年になり…、」であり、94.3％が正答している。ただ、日本語に引きずられたのか「日本に来て３年経ちました」という訳も若干見られた。

２．５．汉语说得还不太好。

この文では“得”が直訳する上でポイントとなるキーワードであるが、様態補語を導く構造助詞だということに気がついている答案が多くみられたが、その前の“汉语”を「中国語を」と訳しているものが半数近くと多かった。確かに“汉语”の前には動詞“说”が省略されているので、必ずしも間違いというわけではないが、直訳という観点からいうと、やはり訳し分けができるものはそうするべきである。従って「中国語は」と直訳しておけば、その日本語をもとの中国語に訳す上でも、役立つはずである。ちなみに「中国語は」と訳したのは26.9％だった。

２．６．铃木对中国历史、文学和音乐都很感兴趣，…

この文では、“对…感兴趣”というパターンがポイントであり、数名を除いて、それを把握した直訳となっている。しかし意外なことに、語句の並列を表す読点“、”の働きが理解できていないと考えられる直訳、「鈴木（さん）は中国の歴史に対して、文学と音楽すべてにとても興味を感じています。」が４割近くみられた。

２．７．今年寒假他打算跟李敏一起去中国。

この文では、動詞“打算”と“跟～一起”というパターンがポイントであるが、90.4％と比較的正答率は高かった。しかし、動詞“打算”は練習時にほとんど出てこなかったせいか、「今年の冬休みに彼のもくろみでは李敏さんと一緒に中国に行く」という同時通訳では可としてもよいような訳が見られた。

３．まとめ

今一度、正答率のワースト５は、…

我性格又开朗又乐观。(11.5%)

…，汉语说得还不太好。(26.9%)

而且我还想说说我学过的中文。(36.5%)

…，可是弹得不怎么样。(46.2%)

…，因此不让我晚上出门。(50.0%)

…，：有老爷、姥姥、父亲、母亲、一个弟弟和我。(50.0%)

である。残念ながら、文法の把握を把握する上で、障害となるような共通する事象は見出せない。上述したように、各文特有の要因があるようだ。なお様態補語を導く構造助詞“得”を伴った文が２つ入っているのは、出題のバランスを欠いたせいもあるかもしれないが、それだけ把握しにくい文型だということだろうか。

今回は期末試験の結果を利用したため、文の中に複数の文法項目が入っているものもあり、文型の把握状況を中心に分析するには、正直に申し上げてやりにくい点もあった。しかし初級から中級への過渡期では、修飾語などが付いたり、文が複数になって、全体が長くなってくると、構文をうまく把握できなくなる傾向があることは、漠然とわかっていたのだが、その一端をかいま見ることができたと思う。今後、文法事項を解説したり練習してもらったりするときにも、ウエートの置き方を考える上で役に立つと思う。

さらに本格的な調査を行うには、まず１つの文に一つの文法事項を盛り込んだモデル文を作成し、辞典を引かなくてもすぐに訳に取りかかれるように配慮した上で、それが意図しているように直訳されるかどうか見る必要があり、さらには、文法事項が複数組み合わさった文ではどうか見る必要があるだろう。

これまで、日本語から中国語への翻訳での間違いを分析したものはあった[(15)]が、その逆はほとんど存在しないようである。この研究がそのスタートとなればと思う。

『附』例文別正答率一覧表

	正答率	誤答率	無回答／書きかけ
①我今年二十岁了。	88.5	11.5	0.0
②我性格又开朗又乐观。	11.5	86.5	1.9
③我老家有六口人：	92.3	7.7	0.0
有老爷、姥姥、父亲、母亲、一个弟弟和我。	50.0	50.0	0.0
④我弟弟比我小两岁。	100.0	0.0	0.0
⑤…，因此不让我晚上出门。	50.0	42.3	7.7
⑥我家离高坂车站不太远。	46.2	53.8	0.0

⑦我坐了十分钟校车。／我坐了两个半小时电车。／昨天晚上，我睡了六个小时觉。	67.3	32.7	0.0
⑧我会弹钢琴，…／我会弹吉他，…	84.6	11.5	3.8
可是弹得不怎么样。／可是弹得不怎么样。	44.2	44.2	11.5
⑨我没有去过台湾，…／我没有去过中国，…	92.3	1.9	5.8
⑩而且我还想说说我学过的中文。	36.5	40.4	23.1
①铃木有一个中国朋友，叫李敏，…／高桥有一个中国朋友，叫李敏，…	90.4	9.6	0.0
②…，是从上海来的留学生。	71.2	26.9	1.9
③他们是在学校的图书馆认识的。	67.3	26.9	5.8
④李敏来日本三年了，…	94.2	5.8	0.0
⑤汉语说得还不太好。	80.8	13.5	5.8
⑥铃木对中国历史、文学和音乐都很感兴趣，…	26.9	67.3	1.9
⑦今年寒假他打算跟李敏一起去中国。	90.4	7.7	1.9

【注】

（1）『広辞苑』（第５版）東京：岩波書店によると、直訳とは「外国語をその原文の字句や語法に忠実に翻訳すること。」とある。森岡健二（1968）21頁上段にはより詳しく「直訳とは、外国語の字句や言い廻しに忠実な翻訳。日本語としての意味や自然さを犠牲にするかも知れないが、外国語を逐語的に日本語に置き換え、外国語風の表現を日本語で再現しようとするもの。」と述べている。

（2）たとえば、別宮貞徳（1980）24頁で「現場の先生から必ず反論がかえってきます。『英語の勉強を……』という所有格の形がこんなところで入ってきては困る。まだ英語を始めたばかりで、'I speak English. ...I study English.' など 'English' はすべて目的格。「英語を」と訳しておかないと生徒の頭が混乱する……。初学者に教える立場としては、もっともな意見です。しかし、『私は英語の勉強をします』と書いた生徒の答案を×にするようなことは、絶対に避けていただきたい。逆に翻訳のテストなら、『私は英語を学びます』は、まちがいなく×です」と述べている。また、D.L. フリーマン（1990）21頁で、文法・訳読教授法における教師と学生の役割について「役割はきわめて伝統的である。教師は教室内の権威者であり、学生は教師の知識を学び取るために教師のいうとおりにする。」また学生と教師のやりとりの性質について「教室内でのやり取りは、ほとんどが教師から学生に対するものである。学生が主導権を握ることはまずないし、学生同士のやり取りもほとんど無い。」と指摘している。他に朱牟田夏雄　他（1968）などでも批判が見られるが、構文や文法を

一通り把握した頃と見計らって、直訳から意訳へ移行させる練習をさせてもよいのではないか。

（3） 三森ゆりか（2003）が詳しい。特に50頁で「『中間日本語』を身につける」ことを提唱し、「中間日本語」とは、国広哲弥氏による提案で、「外国語に以降可能な程度に最小限度整理された日本語」であることを中津燎子（1983）179頁から引用している。「中間日本語」はまだ定着した学習法とは言えないが、直訳した日本語が「中間日本語」を身につけるためにも役に立つのではないだろうか。

（4） 厳密には、再履修の学生や、高校などで学習したことのある学生、自由科目の中国語科目も履修した学生なども含まれている可能性があるが、区別していない。

（5） ベトナム人留学生１名が履修していたが、日本語に若干問題があるため、これは除いた。

（6） 今回は大まかな傾向を見るため、年度別、クラス別の集計は、行わなかった。

（7） 実物を使って、中日辞典の構造、部首索引、音訓索引の説明、および四角号碼（漢字の四隅の特徴を０～９の数字に置き換えて引く辞典）の引き方についても、簡易版を配り、練習してもらった。

（8） 中検研究会（2002）56頁

（9） 全文。なおクラスにより下線部や語句を入れ替えた箇所があるが、それは本文に併記して示す。

大家好！ 现在让我做做自我介绍吧。

我姓小林，名字叫麻由美。我的生日六月三十号。①我今年二十岁了。 ②我性格又开朗又乐观。

我老家在静冈。③我老家有六口人： 有老爷、姥姥、父亲、母亲、一个弟弟和我。 ④我弟弟比我小两岁。我父亲是公司职员。他非常严格，⑤因此不让我晚上出门。

我是大学生。我现在在大东文化大学学习经济学。放学后，我从高坂车站坐电车去打工。有时候，我跟朋友一起去涩谷买东西。

⑥我家离高坂车站不太远。今天我是坐校车来大学的。⑦我坐了十分钟校车。我每天早上七点起床。昨天晚上，我睡了六个小时觉。

我对音乐非常感兴趣。我喜欢唱卡拉ＯＫ，我唱歌唱得还可以。⑧我会弹钢琴，可是弹得不怎么样。

今年春假，我去打工赚钱了。今年暑假，我打算去香港旅行。

因为⑨我没有去过台湾，所以我想去台湾旅行。⑩而且我还想说说我学过的中文。我的自我介绍讲完了。我们认识认识吧。

（10） 語句の翻訳の間違いは、採点では当然、減点しているが、ここでは構文の把握状況を見るのが目的のため、語句の翻訳の間違いがあっても、構文が把握できていると見なせる直訳の場合、正答として扱った。ここでは“…二十岁了”であるにもかかわらず、理由は不明だ

が「21才になりました」と訳したものが1例あったが、正答とした。以下同様。

(11) 三上章（1960）8頁で、「題目の提示『Xハ』は、だいたい『Xニツイテ言エバ』の心持ちです。上の『Xニツイテ』は中味の予告です。下の『言エバ』は話し手の態度の宣言であり、これが述部の言い切り（文末）と呼応します。」と述べている。さらに三上章（1960）107頁で「象ハ、鼻ガ長イナア！／象ノ鼻ハ、長イナア！／　前文は『象』について、ソノ鼻ガ長イ no にあきれた表現ですし、後文は「象ノ鼻」について、ソレガ長イ no にあきれた表現です。前文では視線が象全体に向けられているのに、後文では鼻に焦点が絞られる、というような表現の違いはありますが、…(後略)」とある。

(12) 同時試験ではないため、単語や下線部を入れ替えたり手を入れたりして出題した箇所で、／で併記している。

(13) 前文。1同様に入れ替えた場所は、本文で示す。

①铃木有一个中国朋友，叫李敏，②是从上海来的留学生。③他们是在学校的图书馆认识的。④李敏来日本三年了，日语说得很好。铃木现在学了一年汉语了，⑤汉语说得还不太好。⑥铃木对中国历史、文学和音乐都很感兴趣，但是他还没去过中国，所以他很想去一次。⑦今年寒假他打算跟李敏一起去中国。

(14) 一般に「～しました」は、単にそのような行為をした、つまり『「Aした」のであって「Bした」のではない』ということを述べる場合に使い、「～したのです」はある行為はしたということはわかっていて、『その行為が、どこで（または）いつ（または）どのように行った』のか説明する場合に使う。

(15) 呂才禎　他（1986）や岡部謙治（1990）。

【参考文献】

三上章（1960）『象は鼻が長い』東京：くろしお出版

朱牟田夏雄　他（1968）『座談会　直訳・意訳』『言語生活』197（1968.2）東京：筑摩書房　4－20頁（出席者は朱牟田夏雄、竹内実、グロータース、溝口歌子、司会は編集部　速記は竹島茂）

森岡健二（1968）「翻訳における意訳と直訳」『言語生活』197（1968.2）東京：筑摩書房　21－31頁

梶木隆一（1968）「試験答案における直訳と意訳」『言語生活』197（1968.2）東京：筑摩書房　42－47頁

福田勗（1978）「直訳と意訳」『日英語の比較』（現代の英語教育8）東京：研究社（国広哲弥ほか著）142-171頁

中村保男（1978）「訳読と翻訳」『日英語の比較』（現代の英語教育8）東京：研究社（国広哲弥ほか著）174-199頁

別宮貞徳（1979）『翻訳読本』（講談社現代新書540）東京：講談社
別宮貞徳（1980）『翻訳の初歩』東京：ジャパンタイムズ
牧野力（1980）『翻訳の技法』東京：早稲田大学出版部
東田千秋（1981）『直訳という名の誤訳－英語読書作法』東京：南雲堂
中村保男（1982）『翻訳の秘訣　理論と実践』（新潮選書）東京：新潮社
中津燎子（1983）『再びなんで英語をやるの？』（文春文庫）東京：文藝春秋
呂才禎　他（1986）『日本人の誤りやすい中国語表現300例』東京：光生館（荒屋勧編訳）
D.L. フリーマン（1990）『外国語の教え方』東京：玉川大学出版部（訳は山崎真稔、高橋貞雄）
岡部謙治（1990）『この中国語はなぜ誤りか』東京：光生館
来思平　他（1993）『日本人の中国語：誤用例54例』東京：東方書店（喜多山幸子編訳）
宮脇孝雄（2000）『翻訳の基本　原文どおり日本語に』東京：研究社
胡振剛（2001）「直訳と意訳の応用に関する考察」『比較文化研究』53（未見）
張起旺（2001）『日本人の間違いやすい中国語』東京：国書刊行会（児玉充代訳）
中検研究会（2002）『中検４級問題集　2002年版』東京：光生館 p56
三森ゆりか（2003）『外国語を身につけるための日本語レッスン』東京：白水社
安西徹雄　他（2005）『翻訳を学ぶ人のために』東京：世界思想社（安西徹雄、井上健、小林章夫　編）
呉麗君　他（2005）『中国語の誤用分析：日本人学習者の場合』大阪：関西大学出版部（西川和男編訳）

（2007年９月29日受理）